

AI管路劣化診断プロセス

- 01 管路データ
- 02 漏水履歴

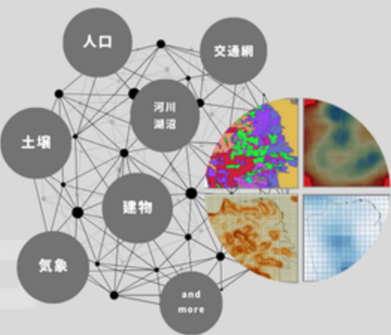
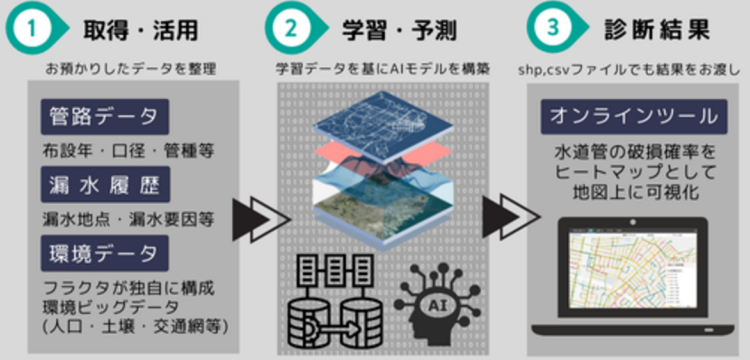


将来起こりうる漏水リスクを可視化
漏水リスクを管路番号ごとに予測

- ✓ ご提供いただくデータは『管路データ』と『漏水履歴』の2つのみ
- ✓ 必要に応じて元データのデジタル化・補正・補完を実施
- ✓ GIS情報・漏水履歴をお持ちであれば給水管の診断も可能
- ✓ 事業者様で収集されたデータも学習可能(水圧情報等)

「漏水履歴の数が少ない...」「数は十分にあるが一部の管種やエリアに偏っている...」などこのようなケースでも診断は十分可能です。いままでの診断実績から他事業者のデータを統合したモデルを構築済み。このモデルを活用し、あらゆる診断が可能となっています。

より最適化された更新計画が策定可能
老朽度評価を精緻化することで



フラクタが収集した
管路データ総延長距離

約76,000km
約54,000件

漏水履歴を学習済 (R6年4月末現在)

診断に用いる環境データ
1 7 1 種類

業界随一を誇ります

災害からわたしたちの日常を守りたい
新しい重要度評価で未来をサポートします

NEW

位置情報と将来人口推計マップを活用

特許
出願中



2025
NEW
PRODUCT
RELEASES

- 2025年度より新たなサービスが始動
- AI管路劣化診断に新たな機能が追加



サービス提供開始時期等
詳細は各エリア担当営業まで
お気軽にお問合せください

Protecting Our Way of Life

- ✓ 断水時にどれくらいの数に影響が出るのか
- ✓ この管路は将来どれくらいの数に給水するのか
- ✓ 長期的な更新是非の判断に繋げ優先度を最適化

NEW

AI管路劣化診断に新たな機能が追加されます

① 更新基準年数シミュレーション
中長期の更新基準年数シミュレーションを併用することでより精緻な計画策定が可能
管年齢を60年、80年、100年と仮置きし、それぞれの漏水確率を算出、理論上の漏水発生時期を算出することで、更新基準年数設定のシミュレーションを容易にできるようになります。

② 路線評価機能
管路ID単位、ユニット単位で漏水確率を可視化することで活用用途が広がります
仕切弁と仕切弁の間一つの工事発注単位(ユニット)として定義、ユニット毎の漏水確率を算出することで更新計画への反映を容易にします。